

日帰り手術

20分で終了、6時間で退院

かつて手術といえは一定期間の入院が欠かせなかったが、近頃は来院してその日のうちに帰宅する「日帰り手術」も広がりつつある。対象となる疾患や術式は限られているものの、仕事や家事が忙しく入院をためらう人や、知人に気付かれずにそっと治療を受けたい人などが選択している。

(編集委員・田川大介)

福岡市中央区渡辺通二丁目自の佐田病院は、一九九八年からこれまでに、多汗症や鼠径ヘルニア、痔核、胆石症を中心に二千七百例を超える日帰り手術を手掛けてきた。病院

は手術が欠かせないと、従来のおなかを切り開いて飛び出した部分を元に戻し、筋腹の裂け目を縫い縮める方法などが一般的で、術後に痛みや突っ張り感が生じるなどから入院して安静にする必要があった。しかし近年は、約三センチの切り傷からポリプロピレン製の形状記憶型補強材を差し込んで筋腹と腹膜の間に固定、腸が飛び出ないようにする「クーゲル法」など、患者の負担や術後の違和感が比較的少ない方法の出現により日帰りも普及してきた。



佐田正之・佐田病院長

を訪ねた日は鼠径ヘルニアの男性二人が手術を受けていた。

この日は金曜で、男性は「土、日曜と家でゆっくり休んで週明けからは会社です」と話した。

日帰り手術が広まって

技術の進歩に制度が後押し

きた高層には、内視鏡や腹腔鏡など医療技術の進歩に加え、二〇〇〇年度の診療報酬改定で、日帰りまたは一泊二日の入院に適用する「短期滞在手術基本料」が設定されたことがある。

医療費抑制を眼目にした制度の変化で、かつては患者を長く入院させればさせるだけ病院の収益になっていたのが、一回の入院や一日ごとの診療報酬を定める制度などにより、ある日数を越えて入院させると病院の報酬が下がるしくみも広がってきた。こうした合理的な政策も普及を後押しする要因となっているようだ。

多忙な人などが選択

研究会が発足した。五月に福岡市で開かれる第三回学術総会で会長を務める佐田正之・佐田病院院長は「一病院の経営だけを考えて、数日間入院した方も、手術後、日帰り手術が可能な状態に思えば、誰にでも適用できると話す。佐田病院が日帰り手術の八割を日帰りで行っている。国内でも多忙な人だけでなく、鼠径ヘルニアや痔などに悩まされるかどうかを、友だちや職場に知らせる必要があり、入院しなければならない」と話す。入院しなくてはならない患者に無理をさせても、要望に応えたい」と話す。佐田院長は、重篤疾患の治療を優先し、手術室の日程表がびっしりと詰まっている大病院は日帰り手術への対応は難しいと話すが、小回りの良さをアピールしたい」という経営戦略もあるようだ。

手技の向上を目指し、医師による情報交換も進んでいる。二〇〇五年には日本短期滞在外科手術

短期滞在手術の対象となる主な疾患

外科	鼠径ヘルニア、下肢静脈瘤、痔核、胆石症、虫垂炎、多汗症、乳がん
整形外科	膝半月板断裂、アキレス腱断裂、腱鞘炎
婦人科	腹腔鏡を使った卵巣腫瘍摘出
循環器科	心臓カテーテル検査・治療
眼科	白内障
泌尿器科	尿管結石
脳外科	全身麻酔での三叉神経痛のブロック治療
内科	内視鏡を使った胃・大腸ポリープ

※実際に適用できるかどうかは医療機関や医師によって異なる

医療 健康



クーゲル法による鼠径ヘルニアの手術。その日のうちに帰宅できる日帰り手術を希望する患者は増えているという
—福岡市中央区の佐田病院



日帰り手術センターで患者を迎えるコーディネーターの石井恵美子看護師(左)